

## 芸州廿日市本陣の3次元外観復元想定図

広島工業大学 三好孝治 郷土史家 藤下憲明

## 1. はじめに

京都から下関に至る西国街道には50の幕府公認の宿場があり、廿日市宿は京都から31番目に位置し、現在の広島県廿日市市天神町、廿日市1丁目、2丁目にあたる地域である。本陣や脇本陣が置かれ、西国大名や幕府役人が宿泊した。本陣役は、元禄(1688年～1703年)の頃から鋳物師で庄屋であった山田家が代々勤めており、山田家の敷地は東西方向13間、南北方向45間を占め、建物は、居宅と本陣を合わせて18部屋からなっていた。江戸期廿日市の町並みは、明治維新の前、長州戦争の際に幕府軍によって、火が放たれ多くの町屋と共に、本陣も灰燼に失ってしまった。明治期に至り山田家は絶家しており、伝来文書も焼失して本陣の往時を知る資料はほとんどない。残っている資料は、弘化3年(1846年)に描かれたとされる間取り図(図1)、佐伯郡廿日市国郡志御編替下しらべ帳に記載されている間取り、および建物の間口と奥行き寸法が記載されている正徳年間町屋絵図である。

西国街道沿いで建物の現存している本陣は、大阪府の郡山宿本陣(文献1)、岡山県の矢掛宿本陣、および広島県の神辺本陣の3箇所であるが、神辺本陣は広島県の東端にあり、矢掛宿本陣(文献2)は広島県の隣県である岡山県にある。また、廿日市宿の西側方面の次駅は玖波宿であるが、玖波本陣は洪量館と称せられ、風光明媚な瀬戸内海に隣接して建てられており、文政2年(1819年)頃の木版摺り本陣間取りの図と、長門彰男氏の描いた復元想定図がある(文献3)。廿日市宿の西方数kmに位置する地御前神社に、廿日市周辺の建物を描いた絵馬が残されている。そこに描かれている建物には地域独特の特徴があり、その建築技術の影響を大きく受けていると考えられる。本研究の目的はこれらの資料から廿日市本陣の3次元CGによる外観復元想定図を作成することである。

## 2. 廿日市本陣に関する資料

1節で述べた間取り図は一階部分の部屋のみ描かれており、山田家の居住部分と本陣部分を合わせて18部屋となっている。佐伯郡廿日市国郡志御編替下しらべ帳には「一ノ間十畳、二ノ間十畳、三ノ間六畳、広間廿四畳、次ノ間十二畳、玄関八畳、内玄関八畳、長床ノ間四畳、切ノ間八畳、同

五畳、都而建前十間御本陣役次右衛門居宅へ建続、同人宅間数八間都合十八間、尤御膳所御台所ノ義ハ次右衛門居宅ノ内ニ有之、右間取御路地等之分り委細図面之通ニ御座候」とあり、この内容と間取り図を照合するとほぼ一致している。一か所、同五畳と記されている個所は、図面では6畳の大きさがあることから、「同五畳」は「同六畳」の記載間違いの可能性はある。

間取り図は、宿割に使われるものであり、その都度手書きで作成するのは面倒であった。廿日市本陣の間取り図は手書きであるが、興津本陣、草津本陣、郡山本陣、宮市本陣、舟木茶屋には版木が残っており、容易に複写を作成したようである。もう一つの特徴は、郡山本陣の間取り図では居宅部分が省略されているが、廿日市本陣の場合には居宅部分が描かれていることである。

正徳年間町屋絵図(1711～1716年)には、廿日市宿の町屋の屋号名および、敷地の表口と入りの間数が記述されており、当時の廿日市宿を知る貴重な資料である。本陣は表口13間(25.61m)、入り12間(23.64m)と記載されている。

## 3. 廿日市本陣の設計

2節で述べた4つの本陣における母屋や御玄関の屋根の形状は入母屋造りであり、また地御前神社内の絵馬に描かれている廿日市の町並みの茅葺き屋根のほとんどが入母屋造りになっている。このことは、廿日市本陣の場合にもあてはまると考え、母屋の屋根形状を入母屋造りとした。御玄関の屋根は格式のある豪華な形状である。神辺本陣と郡山本陣で用いられている千鳥破風屋根、あるいは矢掛本陣で用いられている唐破風屋根があるが、母屋の屋根と御玄関の屋根の繋がり具合から、また格式の高さが伝わりやすいことから、唐破風屋根とした。廿日市周辺の町屋の虫籠窓では窓は角に丸みがなく、漆喰で塗り固められていたことから、厨子二階の窓は虫籠窓とした。当時の建築に携わった職人の行動範囲は、比較的狭い地域内であったと考えられるからである。廿日市本陣の門は全部で4つ作成した(文献4)。門はそれぞれ使用する人によって使い分けられる。御成門は主客専用の門、中門は主客の周りの者が使用する門、勝手口は山田家の者が使用する門、および裏門は主客の家来が警護の際などに使用した

ものと思われる。塀は建物の場合と同様の真壁作りし、控柱を設置した。寸法については、部屋の大きさから算出し、柱間を0.5間としている。高さは前述の周辺の本陣を参考にした。図2に廿日市本陣の立面図を、図3に廿日市本陣の屋根形状のスケッチ、図4に3次元CGによる本陣の3次元外観復元想定図を示す。

#### 4. おわりに

廿日市本陣は、残された資料が少なく、今日まで3次元外観図が明らかにされてこなかった。本研究では、西国街道沿いに現存する本陣、および廿日市周辺の町屋の特徴を基にして復元をおこなった。廿日市は幕末の大火により江戸期の建物はほとんど残っておらず、その歴史も忘れ去られようとしている町である。宿場町の象徴的な建物である本陣の復元が、市民に当該地域の歴史・文化に関心をもってもらうための一助となれば、地域貢献につながるものと期待できる。

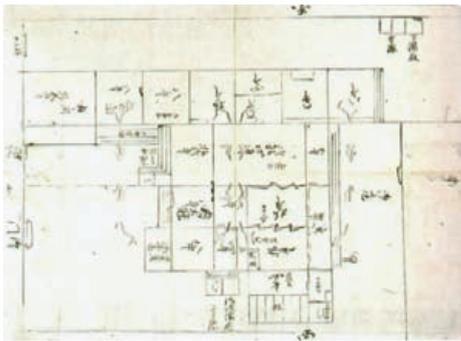


図1 本陣間取り図

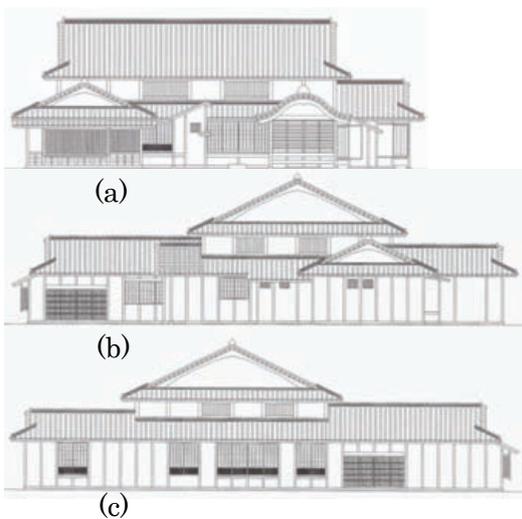


図2 本陣立面図  
(a) 北面、(b) 西面、(c) 東面

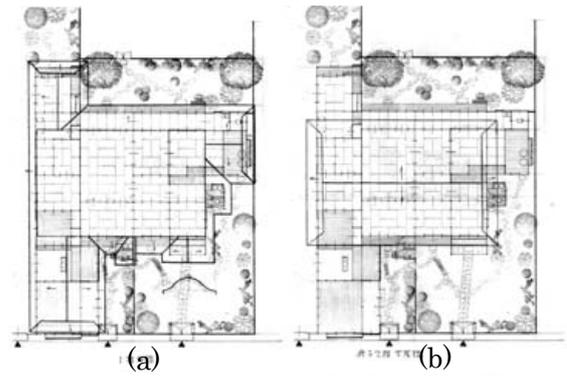


図3 本陣の屋根形状 (TOP VIEW)  
(a) 1階屋根、(b) 厨子2階大屋根



(a)



(b)



(c)

図4 本陣3次元外観復元想定図  
(a) 北側 (西国街道側) から見た外観  
(b) 南側 (廿日市港側) から見た外観  
(c) 北側から人の目線で見た外観

#### 参考文献

- [1] 「椿の御本陣」 笹川隆平・石川道子・梶洗著、向陽書房出版、1986年9月
- [2] 「矢掛の本陣と脇本陣」、武泰稔・中山和・池田喬・岡田泰全・柴口成浩著、日本文教出版、2002年3月
- [3] 「大竹歴史探訪」 長門彰男著、2008年4月
- [4] 「図説・廿日市の歴史」 廿日市市編集、1997年3月